



マインドコントロール装置によって身体の自由が利かない。
抵抗できず、根室の言うがままに身体が動いてしまう。だが心は失っていない。
心の底から憎むこの男に絶対に屈しはしないと、真白は心に決める。
たとえどれだけの屈辱を受けようとも……

いいですよ真白さん
そのまま動いてください

んくッ！
くう…ッ！





ぐうッ!

んん、んあッ!

く…ッ!
んん、あくッ!

ッ
ガッ

グッ
ッ



はあ

はあ

はあ...

ああッ!
はあッ、あ...ッ!

んあ、はあ、ああッ!
あんッ!
ああ、んんあ...ッ!!

グッ

グッ

ぐちゃ

グッ
ぐちゃ





はんッ

ああ

はあッ!

あ

ああ...

んあ!

はあッ



何度も何度も突かれ、根室の熱く
固いモノが出入りする。
それは強い意思で頑なに抵抗する
真白の「女」としての本能を激しく
打ち付ける。
確かに身体は操られていた。
しかしいつの間にか真白は自分で
身体を動かしていた。
屈辱と快楽。その二つの間を真白は
彷徨っていた。